



そのまま教室に掲示！

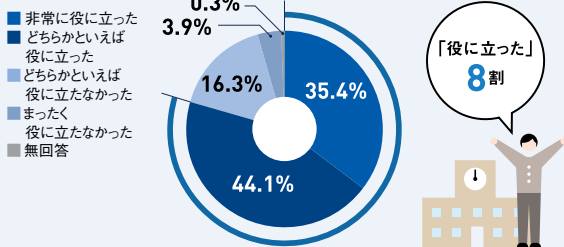
進路環境D

—「今」が見えてく

進学_{の動向}

志望校選びに役立つ「アドミッション・ポリシー」

〔志望校検討時の大学のアドミッション・ポリシー役立ち度〕

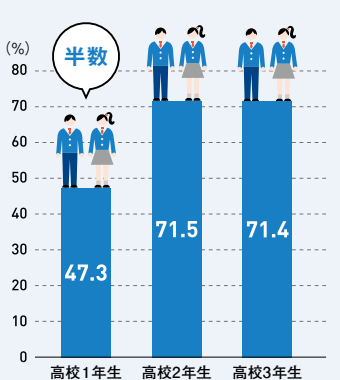


すべての大学は、求める学生像などをまとめた「アドミッション・ポリシー（AP）」（入学受け入れ方針）を策定・公表している。個別大学のAPを調べたことのある高校生の約8割が「役に立った」と回答。自分に合う進学先選びや、進学準備の活動の参考として、興味のある大学について調べておきたい。

リクルート進学総研「進学センサス2019」※グラフは大学進学者のうちアドミッション・ポリシーについて「名前も意味も知っており、個別大学について調べたことがある」者の回答

1年生の約半数がオープンキャンパスに参加

〔各学年でのオープンキャンパス参加状況〕

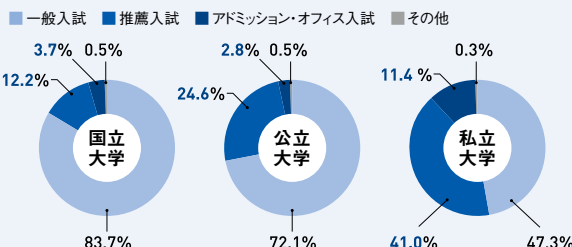


大学進学者の9割以上が高校在学中にオープンキャンパスに参加。その時期は早期化しており、1年生でも半数近くが参加し、2年生が参加のピークとなる。1人あたりの参加校数は平均3.9校。学校見学や模擬授業によって進学後の学びや生活をイメージでき、目標の明確化や学習意欲にもつながる。早期の参加はより効果的だ。

リクルート進学総研「進学センサス2019」

大学入試は多面的・総合的評価の方向へ

〔入試方式別に見た大学入学者の割合〕



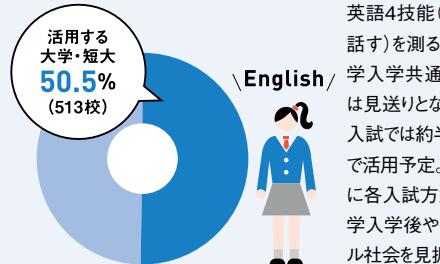
2021年の「大学入学共通テスト」開始など大学入試改革が進むなか、各大学でも志願者を多面的・総合的に評価する動きが活発化。推薦やAOによる入学者比率は増加傾向に。知識以外の幅広い学力が問われる方向だ。

※2021年度より一般入試→一般選抜、推薦入試→学校推薦型選抜、AO入試→総合型選抜に名称変更

文部科学省「平成30年度国公立大学入学者選抜実施状況」より集計
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

将来を見据えた英語4技能の習得を

〔2021年度入試における英語の資格・検定試験の活用〕



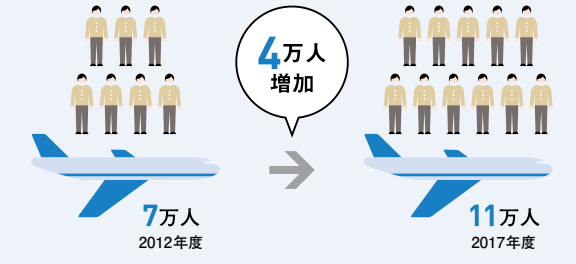
英語4技能（読む・聞く・書く・話す）を測る民間試験は、「大学入学共通テスト」での活用は見送りとなったものの、個別入試では約半数の大学・短大で活用予定。下の表にあるように各入試方式で使われる。大学入学後やその先のグローバル社会を見据え4技能習得を。

■一般選抜に活用…310校 ■総合型選抜に活用…315校
■学校推薦型選抜に活用…341校 ※1：旧一般入試 ※2：旧AO入試 ※3：旧推薦入試
（1つの大学において、複数の選抜区分で活用することから、合計数とグラフの活用大学数は一致しない）

文部科学省「令和3年度大学入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用に関する調査結果 第2報」（令和2年1月8日時点）

年間10万人以上の大学生が留学を経験

〔日本人学生の留学状況〕



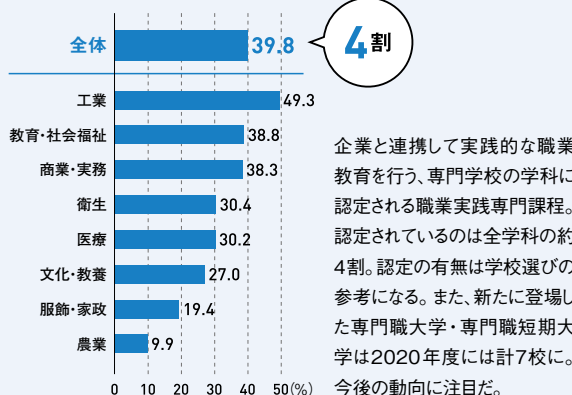
大学生等の留学数は年々増加。経験者に留学で得たものを聞いたところ、「チャレンジ精神」（68.0%）と「コミュニケーション能力」（64.6%）が「語学（英語）」（61.2%）より上位に*。留学で多様な力をつけている。

*ヒタタ！留学JAPAN「就職活動と留学に関する意識調査」（2019年）

日本学生支援機構「平成29年度 協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」※数値は協定等に基づかない日本人留学生数（在籍大学把握分）を含む

実践的な専門教育の認可、学校選びの参考に

〔「職業実践専門課程」の認定状況〕

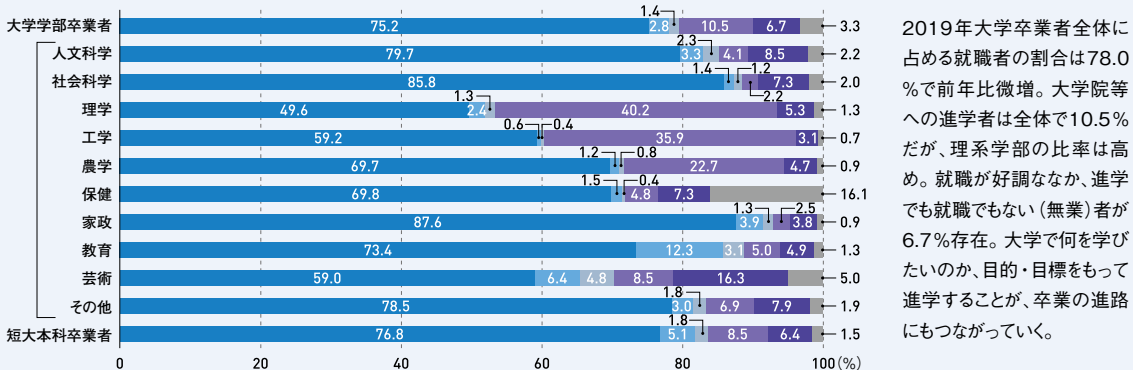


企業と連携して実践的な職業教育を行う、専門学校の学科に認定される職業実践専門課程。認定されているのは全学科の約4割。認定の有無は学校選びの参考になる。また、新たに登場した専門職大学・専門職短期大学は2020年度には計7校に。今後の動向に注目だ。

文部科学省「「職業実践専門課程」の認定状況」（平成31年3月5日現在）

大卒者の約15人に1人は進学も就職もしていない

〔大学・短大卒業者の進路状況〕

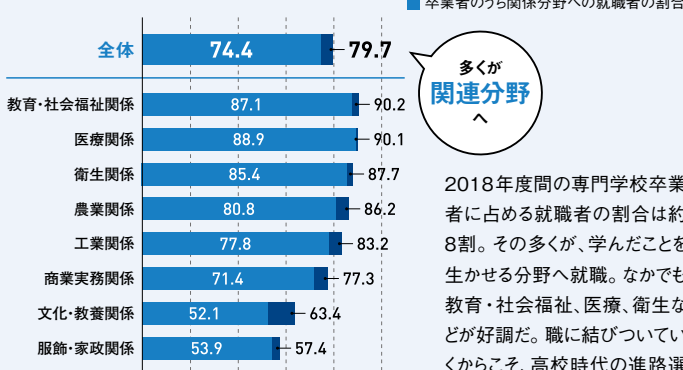


2019年大学卒業生全体に占める就職者の割合は78.0%で前年比微増。大学院等への進学者は全体で10.5%だが、理系学部の比率は高め。就職が好調ななか、進学でも就職でもない（無業）者が6.7%存在。大学で何を学びたいのか、目的・目標をもって進学することが、卒業の進路にもつながっていく。

文部科学省「学校基本調査」（2019年3月卒業生について）※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者（就職しかつ進学した者を含む）※「正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上の期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が40～30時間の者※グラフでは「臨床研修医（予定者を含む）」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

職に直結していく専門学校の学び

〔専門学校卒業者の就職状況〕



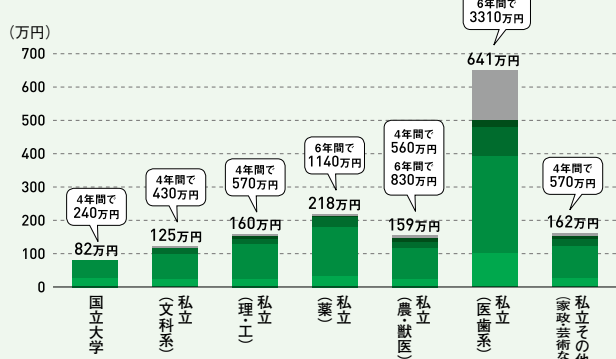
2018年度間の専門学校卒業生に占める就職者の割合は約8割。その多くが、学んだことを生かせる分野へ就職。なかでも教育・社会福祉、医療、衛生などが好調だ。職に結びついていくからこそ、高校時代の進路選択のときに適性や興味・関心を見極めたうえで進学を。

文部科学省「学校基本調査」（2018年度間）より集計

進学_{費用の動向}

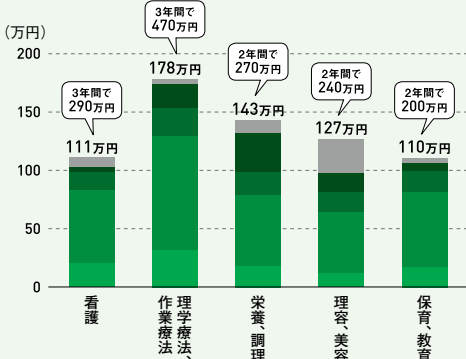
初年度納付金は約100万円～。分野によって大きな差

〔大学の初年度納付金〕



文部科学省「平成30年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）」（昼間部）※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

〔専門学校の初年度納付金〕



■入学料（金） ■授業料
■（施設）設備費 ■（実験）実習料 ■その他

大学の初年度納付金（上記凡例の5項目の合算）は、国立はほとんどが標準額82万円だが、独自に値上げを行う大学も。私立は学部系統によって異なる。専門学校の初年度納付金も分野の差が大きく、約100万円～180万円。いずれも就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見通しを立てておくことが大切だ。